

『おおつち産業まつり 親子木工教室』

10月14日、大槌海づくり公園において「おおつち産業祭り」が開催されました。このイベントでは、三陸中部森林管理署は釜石地方林業振興協議会の一員として、親子木工教室のお手伝いをさせていただきました。

未就学児～小学校高学年くらいの子どもたちを中心に多くの親子にご参加いただき、地域材を使用したミニイス、本棚、プランターのキットと、大槌町が森林環境譲与税を活用して購入した「引き出し付きイス」、「引き出し付き小物入れ」のキットの組み立てをしていただきました。

キットは合計60セットほど用意しておりましたが、終了予定時刻の16時より大幅に早い14時ごろには全て無くなってしまふほどの盛り上がりとなりました。今回使用したキットのうち、ミニイス、本棚、プランターは製作者の技量に関わらず、簡単に作りやすい設計となっており、子どもたちも熱中して金槌を振っている様子でしたが、「引き出し付きイス」、「引き出し付き小物入れ」については、接合部分における1mmのずれにより引き出し部分が収まらなくなるといった上級者向けのものとなっており、スタッフによる補助を介してもなお苦戦している様子でした。

当の私は、ミニイス等の簡単なキットについては、問題なく補助することができましたが、「引き出し付きイス」等の上級者向けのものについては、接合する板の向きを間違えたり、接合時に周りを抑えてあげる際に、ズレを生じてしまったりと、上手く補助をすることができませんでした。普段木工作业の機会が少ないこともあり、実際にやってみるとなかなか難しく、木材産業の川上に身を置くからには、このくらいは出来ないとダメだなと痛感しました。また、今回の新たな試みとして、自作した木工作品に好きなキャラクターの木製アクセサリーをつけられるようにしたことで、子どもたちが目を輝かせながら、設計書通りに組み立てた既製品を、世界に一つだけの作品へと昇華していく様を見ることができ、ものづくりの原点を再確認させられたような気がしました。

今回の経験を通して、木工作业の魅力をあらためて感じると同時に、日頃から木工作业に携わることの必要性を感じました。手始めとってはなんですが、自宅にあると便利な「引き出し付き小物入れ」あたりから製作してみたいと思います。



業務 G 経営・森林育成担当 大脇